刈谷市マスコット
キャラクター
かつなりくん

再現！刈谷城（刈谷城AR）

刈谷城は天文2年（1533）水野忠政によって築城されました。刈谷城は江戸時代を通じて刈谷の政治・経済の中心地でしたが、明治時代に廃城となり、櫓や石垣などの建造物はほとんど解体されてしまいました。そのため、現在の城跡（亀城公園）から当時の姿をうかがい知ることは難しくなっています。

（表紙の画像）（「甦る刈谷城 復元CG 刈谷城と城下町」より（部分）刈谷市歴史博物館で販売中！）

「ARスポット」でスマホをかざすとかつての姿をCGで再現！

1 ARスポットは4ヶ所

1 本丸・帯郭　2 辰巳櫓　3 戌亥櫓

※かつなりくんとの記念撮影もあるよ！（4）

<ARスポットの場所>

2 操作は簡単

手順① 城跡内のARスポット看板にあるQRコードをスマホで読み取ります（カメラ起動）。

手順② 看板にある“かつなりくん”の絵にスマホをかざすと、画面に再現CGが現れます。

<QRコード>　<現地の看板>

記念撮影の場合は、上にあるQRコードを読み取った後、**歴史博物館の看板**にスマホをかざすと、画面にかつなりくんが現れます。

<歴史博物館の看板>

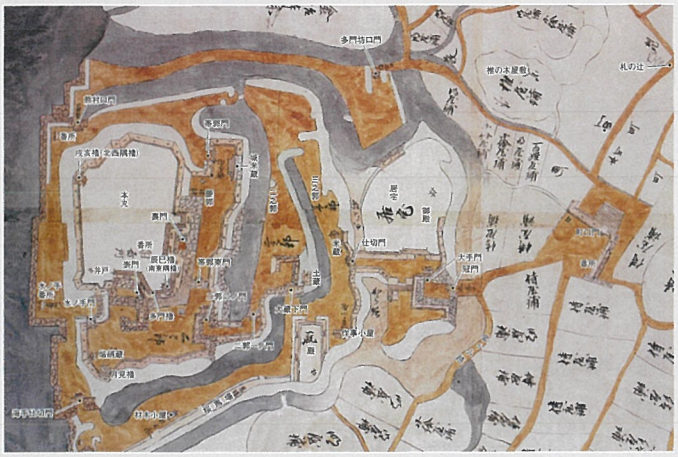
3 事前準備は不要

アプリの事前ダウンロードは必要ありません。
スマホのブラウザだけでお楽しみいただけます。

※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です

刈谷城の特徴

刈谷城は、三河最西部、境川河口の衣ヶ浦の入江に突き出した台地上に築かれた平山城でした。西の衣ヶ浦に面して本丸が置かれ、その東に帯郭がありました。本丸の南側から帯郭東の内堀の外側までが二の丸で、その東側に堀を挟んで三の丸がありました。三の丸の東には大手門と藩主の居宅（御殿）がありました。



本丸に天守はありませんでしたが、周囲を土塁と石垣で囲い、北西と南東にはそれぞれ戌亥櫓、辰巳櫓が江戸中期までありました。本丸南側の表門と東側の裏門は辰巳櫓を経由して多門櫓でつながっていました。

刈谷城跡の発掘調査成果

刈谷城は廃城に伴い解体されたため、現地で当時の石垣を見ることはできません。しかし、平成21年度から令和2年度までに実施された発掘調査により、石垣普請のための地業の痕跡（地固め遺構）が見つかり、本丸の石垣の位置を確認することができました。また、藩主の家紋のついた瓦も多く出土しました。

水野家　立沢瀉紋

土井家　八本柄杓水車紋

刈谷城の歴史

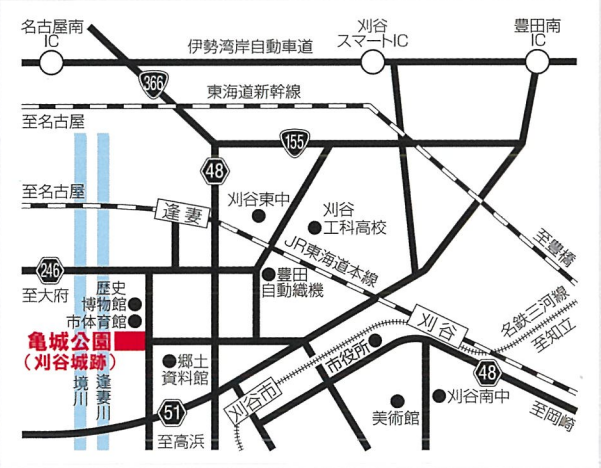
戦国時代、知多郡緒川（現東浦町）を拠点とする水野氏は、衣ヶ浦対岸の三河国刈谷へ進出しました。天文2年（1533）には、徳川家康の生母於大の父である水野忠政が新たな城（刈谷城）を築きました。江戸時代には忠政の孫の水野勝成が初代刈谷藩主となり、以後水野（分家）、松平（深溝）、松平（久松）、稲垣、阿部、本多、三浦、土井の9家22人の譜代大名が刈谷を治めました。

明治4年（1871）の廃藩置県後に城は政府の所有となり、建造物はすべて取り払われました。

大正2年（1913）に城跡を買い取った大野介蔵は、大正5年に本丸の戌亥櫓があった場所に士族会の会合場所（十朋亭）を建設しました。

昭和11年に城跡は刈谷町に売却され、翌12年に本丸・二の丸を中心に亀城公園が開設されました。太平洋戦争末期には食糧増産のための畑や軍の対空陣地となり荒れましたが、戦後は再整備が進められ、昭和25年の市制施行を経て、現在は市民の憩いの場となっています。

亀城公園（刈谷城跡）へのアクセス



公共交通機関：JR東海道本線「逢妻」駅・名鉄三河線「刈谷市」駅から徒歩15分
刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」で刈谷市駅から10分、逢妻駅南口から5分（「刈谷市体育館」下車徒歩3分）

自家用車：伊勢湾岸自動車道「名古屋南インター」または「豊田南インター」から約20分

動作環境

- iOS11以上 Safari
- Android8以上 GoogleChrome
- 現地で利用いただく際の通信費用は利用者の方にご負担いただきます。
- インターネットに接続できる状態でご利用ください。

問合先

刈谷市歴史博物館　〒448-0838　刈谷市逢妻町４丁目25番地1
TEL：0566-63-6100
FAX：0566-63-6108

歴史博物館HP